

## 概要

- 松山市、東温市の鳥獣による農作物被害額は4,256万円に上り、その被害金額の内訳はイノシシが全体の7割以上を占めている。特に、柑橘類の中でも単価の高い県オリジナル品種等への被害が拡大しており、被害範囲も島しょ部から市街地近隣の農地に拡大していることから、**早急な対策が必要**である。
- このため、令和5年度からは活動エリア内の農家等をリーダーとして位置づけるとともに、集落内にモデルとなる活動エリアを設け、**総合的な対策を重点的に実施した**。
- 人材育成を図ることで鳥獣害に強い地域づくりを推進し、農作物被害の低減に繋がった。

## 具体的な成果

### 1 モデル集落の取組みとリーダーの技術習熟度向上

■モデル集落の被害 R4:7戸 →R5:3戸 →R6:0戸

### 2 管内全域における活動

#### ■関係機関との連携

①猟友会へのアンケートへ実施し、捕獲における問題を明確化

②イノシシによる被害面積 R4:13.0ha →R5:13.4ha →R6:13.5ha

鳥獣による農作物被害額 R4:4,256万円→R5:3,944万円→R6:3,746万円

管内狩猟免許保有者 R4:924人 →R5:932人 →R6:939人



補強を加えた侵入防止

#### ■人材育成

えひめ地域鳥獣管理専門員 1人増加

就農予定者や青年農業者等が鳥獣害や鳥獣対策について意識改善が図られるとともに、農作物被害軽減に向けた取り組みが促進できた



青年農業者へのわな猟スキルアップ実践研修



鳥獣対策の見回り点検

### 3 その他

■県内で初めてヌートリアを確認、捕獲

## 普及指導員の活動

令和5年

- 普及指導員の提案により松山市門田町大室地区に**モデル集落を設定し、総合的な対策を重点的に実施**

令和6年

- モデル集落のリーダーに対する技術習熟度の向上支援
- 関係機関との連携を促進
- 猟友会へ実態調査アンケートの実施
- 先進地視察を企画・実施
- 各種事業の伴走支援



先進地視察

## 普及指導員だからできたこと

- ・県事業や実証試験などを普及指導員が丁寧に指導助言したことが、モデル集落等における**鳥獣被害軽減につながった**。
- ・専門技術や幅広い知見を有する普及指導員が、関係機関の潤滑油として機能することで、認識の共有や課題の明確化、鳥獣害対策の各種事業の推進につながった。

愛媛県

## 総合的な対策の普及によるイノシシ等鳥獣被害の低減

活動期間：令和5年～（継続）

### 1. 取組の背景

管内（松山市、東温市）の鳥獣による農作物被害額は4,256万円（令和4年度）に上り、その被害金額の内訳はイノシシが全体の7割以上を占めている。特に、柑橘類の中でも単価の高い県オリジナル品種等への被害が拡大しており、被害範囲も島しょ部から市街地近隣の農地まで拡大していることから、早急な対策が必要である。

このため、令和5年度から活動エリア内の農家等をリーダーとして位置付け、集落内にモデルとなる活動エリアを設けて、総合的な対策を重点的に実施した。

### 2. 活動内容（詳細）

#### （1）モデル集落の取組みとリーダーの技術習熟度向上

令和5年度にモデル集落に設定した松山市門田町大室地区において、補強を加えた侵入防止柵対策の実証ほへのイノシシの侵入状況の見回りや聞き取り調査を実施した。リーダーに位置付けた農業者に対しては、侵入防止柵のメンテナンス等の技術習熟度向上を支援した。



補強を加えた侵入防止柵

#### （2）管内全域における活動

##### ①関係機関との連携

捕獲の核となる猟友会の高齢化や担い手不足等の課題を抽出するために、管内猟友会各支部長に対してアンケートを実施した。

また、関係機関職員の資質向上と効果的な鳥獣被害対策の推進を図るため、市及びJA等の関係者により、通信機器、地獄檻、箱わなを活用した四国中央市のサルの捕獲事例や、松山市北条地区のジビエの加工処理施設「高縄ジビエ」の取組について視察研修を実施した。



先進地視察

愛媛県がデジタル実装を図るために実施している「トライアングルエヒメ<sup>※</sup>」の一環で、松山市興居島で実施するわなセンサーを活用した見回り等活動の効率化を図る実証事業（R4～R6）において、実証に参加する地元猟友会に聞き取り、課題を共有するとともに、参画している市担当者との今後の実装化に向けた情報共有を図った。

※「デジタル企業の成長」、「愛媛県（地域）の発展」、「地域事業者の稼ぐ力の向上」

の観点から、デジタル・ソリューション等の活用による地域課題の解決を目指す愛媛県の「デジタル実装加速化プロジェクト」

## ②人材育成

「えひめ地域鳥獣管理専門員専門講座」(県単)の受講生が、松山市太山寺町で実施したタヌキやハクビシン等の中型獣対策の複合柵実証試験において、円滑に技術習得が行えるよう支援した。

また、松山市堀江町にあるJA研修ほ場等で、研修生等と一緒に鳥獣害対策の見回り点検を行い、対策の強化等を図った。

松山市小野地区では、「青年農業者等わな猟スキルアップ実践事業」(県単)を活用し、青年農業者グループの若手狩猟者に対し、わな猟の捕獲技術習得を支援した。



鳥獣対策の見回り点検

## (3) その他

松山市中島において、農業被害を危惧するヌートリアが県内で初確認されたことを受け、松山市や県生物多様性センターと情報共有を図り、捕獲調査に取り組んだ。

また、愛媛県の「鳥獣害防止対策強化月間」(10/1～31)に合わせて、中予地方局でロビー展を開催し、県民への鳥獣害に対する意識啓発を図った。



## 3. 具体的な成果（詳細）

### (1) モデル集落の取組みとリーダーの技術習熟度向上

モデル集落における鳥獣被害は、モデル集落の設定前は7戸であったが、対策を始めた令和5年には3戸、令和6年には被害が0戸と減少した。

### 青年農業者へのわな猟スキルアップ実践研修

### (2) 管内全域における活動

#### ①関係機関との連携

猟友会へのアンケートを実施し、安定的な捕獲圧強化に向けた課題や有害捕獲申請手続きについて要望等を取りまとめた。また、アンケート結果を各市鳥獣害防止対策協議会等で共有し、捕獲における問題点を明確化して、今後の施策の参考とした。

イノシシによる被害面積は13.5ha(前年比0.1ha増)、鳥獣による農作物被害額は3,746万円(前年比198万円減)となった。また、管内狩猟免許保有者は今年度の免許失効者数を上回る新規取得者(66人)があり、939人と増加した。

#### ②人材育成

えひめ地域鳥獣管理専門員が1人増加した。また、就農予定者、青年農業者

等の鳥獣害や鳥獣対策に対する意識が高まり、農作物被害軽減に向けた取組みを推進することができた。

### (3) その他

関係機関と連携した結果、松山市中島において県内で初めてヌートリアを捕獲した。そのような状況を踏まえ、隣接する興居島では関係機関を参集し、ヌートリアの生態等に関する情報共有を図るとともに、今後の被害防止対策について協議し、新たな鳥獣害への対応について意識統一を図った。

## 4. 農家等からの評価・コメント（松山市S氏）

以前から鳥獣害対策のためにワイヤーメッシュを設置していたにも関わらず、イノシシの侵入により農作物の被害が発生していたが、今回、モデル集落に位置付けてもらい、侵入防止柵の補強等の指導を受けたおかげで、効果的に被害を抑えることができた。

## 5. 普及指導員のコメント

中予地方局農業振興課地域農業育成室

主任 武智渉

当地域は、中晩柑類等の果樹を中心に、野菜、米麦、花木等多様な農産物が栽培されている一方、鳥獣害もイノシシ、ニホンジカ、ニホンザル等多様な獣種から被害を受けている。高単価な農産物を中心にワイヤーメッシュ等の設置が進んでいるが、鳥獣の生息域の拡大も確認されるなど、対策を緩めることはできない。引き続き関係機関と連携した取組みが重要である。

## 6. 現状・今後の展開等

既存モデル集落での取組みを引き続き支援し、集落内での被害低減に向けた活動を展開するとともに、新たなモデル集落を設定し、成功事例の横展開や新たな対策にチャレンジする。また、各種事業を活用し、鳥獣被害対策にかかる指導者や捕獲者等の人材育成を図る。

中予地区や各市鳥獣害防止対策協議会等を通じ、モデル集落における活動の周知や情報共有を行い、関係機関と連携して鳥獣被害の低減に取り組む。